

平成

30 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	ぐんちゅう保育所運営事業	会計名称 予算科目	一般会計 3 款 2 項 3 目	事業番号	1650	担当課 所属長名	子育て支援課 下岡裕基
事業評価の有無	■ 評価対象事業	□ 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	田窪幸司
法令根拠等	児童福祉法					実施期間 【開始】	平成 18 年度
総合計画での位置付け	健康福祉都市の創造 次代を担う子供たちの育成支援					【終了】	平成 年度(予定) ■ 設定なし
総合計画における本事業の役割	総合計画の政策を達成するために、次代を担う子供たちの育成支援を推進した。						
事業の対象	保育に欠ける未就学児の世帯で、ぐんちゅう保育所に入所を希望する者	事業の目的	保護者の労働や疾病等により、家庭で保育できない（保育に欠ける）乳児、幼児及び児童を保護者からの申し込みによりぐんちゅう保育所に入所させ保育を行う				
事業の内容 (整備内容)	保育に欠ける乳児、幼児及び児童ぐんちゅう保育所で保育する	昨年度の課題に対する具体的な改善策	市の中心部に位置した施設で入所申込の多い施設であるが、民間施設等、近隣の施設と入所調整を行い待機児童の解消に努めた。				

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳（千円）							事業活動の実績（活動指標）								
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	29年度実績	30年度予定	9月末の実績	30年度実績			
直 接 事 業 費	55,605	53,013	5,775	0	0	57,639	待機児童数	人	1	0	0	0			
国 庫 支 出 金	1,870	1,786	0	0	0	1,903									
県 支 出 金	1,870	1,786	0	0	0	1,456									
地 方 債		0	0	0	0	0									
そ の 他	35,112	33,618	0	0	0	38,891									
一 般 財 源	16,753	15,823	5,775	0	0	15,389									
職員の人工（にんく）数	0.18	0.08				0.08									
1人工当たりの入件費単価	8,017	7,982				7,982									
※ 直接事業費+入件費	57,048	53,652				58,278									
主な実施主体	直接実施	実施形態（補助金・指定管理料・委託料等の記載欄）													
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)				31 年度	32 年度	33 年度	34 年度	35 年度	5年間の合計						
成 果 指 標	指 標	待機児童数		55,700	55,700	55,700	55,700	55,700	278,500						
				単位 人	区分年度	29 年度	30 年度	31 年度	目標 毎 年 度						
	指標設定の考え方	待機児童数を成果指標に定め、今後の児童数の変動を把握し、施設整備や保育士配置など計画的に運営する		目 標	0	0	0	0	0						
				実 績	1	0									
	指標で表せない効果														

事務事業評価（CHECK）

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況（今年度の途中経過）		市の中心部に位置した施設で入所申込の多い施設であるが、民間施設等、近隣の施設と入所調整を行い待機児童の解消に努めた。							
事務事業の評価	事務責任者（事務担当責任者）	妥当性	目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 概ね、施策の目的に沿った事業である。 3 この事業では施策の目的を果たすことができない。 2	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業成果・工夫した点	市の中心部に位置した施設で入所申込の多い施設であるが、民間施設等、近隣の施設と入所調整を行い待機児童の解消に努めた。
			社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 3 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 2	4				
			市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 3 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 2	3				
		有効性	事業の効果	5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 3 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A		待機児童とならないよう、保護者と話し、近隣施設と入所調整を行った。慢性的な保育士不足は解消されておらず、民営化等保育士対策を行わなければならない。認定こども園化についてニーズを把握しながら検討する。
			成果向上の可能性	5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 3 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 2	4				
			施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に向け、効果を認めることができる。 3 施策推進につながっていない。 2	4				
		効率性	手段の最適性	5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 3 活動指標の実績も上がりず、効率的な手段の見直しが必要である。 2	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業の苦労した点・課題	待機児童とならないよう、保護者と話し、近隣施設と入所調整を行った。慢性的な保育士不足は解消されておらず、民営化等保育士対策を行わなければならない。認定こども園化についてニーズを把握しながら検討する。
			コスト効率	5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 3 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 2 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	3				
			市民（受益者）負担の適正	5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 4 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 2	4				
	評価	一次判定～所属長～	目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 概ね、施策の目的に沿った事業である。 3 この事業では施策の目的を果たすことができない。 2	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業の方向性	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 市内中心部にあるため、最も入所希望者が多く、ぐんちゅう保育所は必要な保育施設であり、今後も事業を継続していく。
			社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 3 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 2	4				
			市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 3 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 2	3				
		有効性	事業の効果	5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に向けて対応できている。 4 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 3 市民生活や行政内部の課題解決を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 2	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	所属長の課題認識	市内で最も入所希望者が多いため、今後も保育士の確保に努め、待機児童の発生を防いでいく必要がある。
			成果向上の可能性	5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 3 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 2	3				
			施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に向け、効果を認めることができること。 3 施策推進につながっていない。 2	3				
		効率性	手段の最適性	5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 3 活動指標の実績も上がりず、効率的な手段の見直しが必要である。 2	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A		
			コスト効率	5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 3 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 2 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	3				
			市民（受益者）負担の適正	5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 4 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 2	3				

施 策 を 踏 ま え た 判 断	二 次 判 定	<input type="checkbox"/> 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	 <p>指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。</p>
		<input checked="" type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外 部 評 価	答申の内容
------------	------------------	-------

今後の方針性 (ACTION)

の経 最 終 者 判 会 議 の 議 事	事業の方針性	コメント欄	
		<input type="checkbox"/> さらに重点化する。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する。	
		<input type="checkbox"/> 右記の点を見直しの上、継続する。	
		<input type="checkbox"/> 事業の縮小を行う。	
		<input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を行う。	